

故大塚裕史教授追悼号によせて

YOKOUCHI, Masao / 横内, 正雄

(出版者 / Publisher)

法政大学経営学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経営志林 / The Hosei journal of business

(巻 / Volume)

47

(号 / Number)

4

(発行年 / Year)

2011-01

故大塚裕史教授追悼号によせて

人の死は、それが誰であれ悲しくつらいものであるが、その人が将来を嘱望されていたならば、その思いもひとしおである。2010年4月4日、入学式が終わり、これから新年度が始まるというときに大塚裕史教授の訃報に接した。享年50歳であった。急速に病状が悪化していたことは聞いてはいたが、12月までは教壇に立ち、精力的に学内業務もこなす一方で、遺作となった「プロジェクトのマネジメント・コントロールの手法―アーンド・バリュウ法の位置づけ―」を執筆して『経営志林』に発表されていた。12月末に体調を崩し、故郷の福島に帰って療養したものの、1月には一時的に復帰された。しかし、やはり療養に専念すべきだとのことから2月には入院生活に入ったが、それから2カ月あまり、突然と言うしかない知らせであった。

大塚教授は1959年11月22日、福島市に生まれた。1978年に福島高等学校を卒業されたのち福島大学経済学部に進学された。卒業後は東北大学大学院経済学研究科に進学し、管理会計を専攻された。1987年に大学院博士後期課程を退学して、いわき短期大学商経学科専任講師の職を得て会計学の教育者としてのキャリアをスタートさせている。その後、1989年に石巻専修大学経営学部に移り、1993年には助教授、そして2001年に教授になられた。この間、1997年には東北大学で博士号をとられた。博士論文は「参加型予算管理研究」であり、この論文は1998年に同文館出版から出版され、大塚教授の主著となっている。法政大学への赴任は2003年4月であり、学部では主に「原価管理論」、大学院では「管理会計論」を担当された。また、専門職大学院アカウンティング専攻でも「基本原価計算」の教鞭をとられた。さらに、2007年度には副学生部長として学生との対応に尽力し、経営学会の活動でも本誌『経営志林』の編集を担当されている。

大塚教授の専門領域は予算管理を中心とした管理会計にあったが、その研究業績については、師であるとともに同僚でもあった佐藤康男教授の追悼の辞に譲ることとし、ここではその人となりにもふれることにしたい。思い起こせば大塚さんは人なつっこい笑みを絶やさず、いつもわれわれを和ませるものをもっていった。サクソフーンを吹き、音楽が好きな穏やかな人であった。その一方で粘り強く、緻密な点も彼の人柄の一端であるように思う。大塚さんは、2009年の経営学部創設50周年を記念し、経営学部学生の勉学に資するために企画された『経営学部生のための用語集』の編集作業をほとんど一人でこなされた。500頁を超える大部の『用語集』は、彼の粘り強く緻密な仕事なしにはとうてい完成されえなかったであろう。創設50周年の記念講演を行ったマイケル・ポーター教授に、これからは戦略的管理会計について研究するつもりだと自己紹介し、新たな研究テーマに向けて意欲を燃やしていた矢先の死であった。

研究者としての一層の飛躍を前にしてこの世を去らねばならなかった大塚さんの無念の思いはいかばかりか。法政大学経営学部としても、良き教師であり、優れた研究者であり、そして頼りがいのある同僚を失ったことは痛恨の極みである。われわれに多くの印象深い思い出を残しながらこの世を去ってしまった大塚裕史教授のご冥福を祈り、ここに追悼号を刊行する次第である。

2011年1月

法政大学経営学部長 横内正雄

故大塚裕史教授の略歴及び主要研究業績

1. 略 歴

1959年（昭和34年）11月22日 福島市に生まれる

1978年3月 福島県立福島高等学校卒業
1982年3月 福島大学経済学部卒業
1985年3月 東北大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
1987年3月 東北大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得
1987年4月 いわき短期大学商経科専任講師
1989年4月 石巻専修大学経営学部専任講師
1993年5月 石巻専修大学経営学部助教授
1997年1月 東北大学博士（経済学：博士論文『参加型予算管理研究』）
2001年4月 石巻専修大学経営学部教授
2003年4月 法政大学経営学部教授

2010年（平成22年）4月4日 午後4時6分 福島市にて永眠，享年50歳

2. 主な研究業績

(1) 著書

『参加型予算管理研究』同文館出版（1998年）

(2) 共著

佐藤康男編著『ケース・スタディ日本企業の管理会計システム』白桃書房（1993年）「第4章 横河電機の管理会計システム—SBU 管理に対する新たな取り組み—」担当

佐藤康男・豊島義一編著『日本企業の管理会計』白桃書房（1997年）「第6章 明治乳業の管理会計制度」，「第9章 わが国企業の予算編成の諸相」担当

門田安弘編著『組織構造と管理会計』税務経理協会（2003年）「第8章 サプライチェーンマネジメントとスループット会計」担当

加藤勝康・豊島義一編著『Q&A 管理会計入門』同文館出版（2003年）「第8章 最適在庫量の決定とJIT 購入」，「第9章 TOC に役立つスループット会計」担当

門田安弘編著『企業価値向上の組織設計と管理会計』税務経理協会（2005年）「第29章 サプライチェーンに対する TOC・スループット会計の有用性」担当

(3) 論文

「参加予算研究の一考察 —行動科学的アプローチの意義と体系—」『研究年報経済学』第47巻第2号（1985年）

「参加予算に対するコンティンジェンシー・アプローチ」『研究年報経済学』第49巻第1号（1987年）

「参加予算研究のためのフレームワーク—行動科学的アプローチとコンティンジェンシー・アプローチの位置づけ—」『会計』第134巻第4号（1988年）

- 「参加予算の操作的把握に関する考察」『いわき紀要』(いわき短期大学) 第14号 (1988年)
- 「参加予算の統合モデルに対するインパクト—1980年代の研究を中心として—」『石巻専修大学経営学研究』 第2巻第1号 (1990年)
- 「管理会計担当者の役割」『石巻専修大学経営学研究』 第3巻第2号 (1992年)
- 「参加予算の機能の本質に関する理論的考察」『会計』 第141巻第5号 (1992年)
- 「I.コルビルの行動会計再構築論—方法論的考察について—」『研究年報経済学』 第55巻第3号 (1994年)
- 「バックフラッシュ・コストイングの行動的意義—JIT 環境における原価計算—」『産業経理』 第54巻第3号 (1994年)
- 「予算管理における管理者の参加の実態と機能に関する調査—中間報告—」『石巻専修大学経営学研究』 第6巻第1号 (1994年)
- 「日本企業の予算編成」『原価計算研究』 第20巻第1号 (1996年)
- 「スループット会計の意義と導入の背景—バックフラッシュ・コストイングとの関係・ABC の不適合性—」『研究年報経済学』 第58巻第4号 (1997年)
- 「参加予算の機能の二面性に関する考察」『会計』 第151巻第4号 (1997年)
- 「スループットの会計の概念と意義に関する考察」『原価計算研究』 第23巻第1号 (1999年)
- 「制約理論 (TOC) による生産工程管理と二つのスループット会計」『企業会計』 第51巻第6号 (1999年)
- 「直接原価計算を超えるスループット会計」『会計』 第156巻第4号 (1999年)
- 「中小水産加工業の採算管理—石巻地域における実態調査に基づいて—」『経営志林』 第41巻2号 (2004年)
- 「原価差異分析の可能性に関する一考察」『経理研究』 第48号 (2005年)
- 「プロジェクト管理のマネジメント・コントロールに関する一考察」『商學論集』 第76巻第3号 (2008年)
- 「プロジェクトのマネジメント・コントロールの手法—アード・バリュー法の位置づけ—」『経営志林』 第46巻第4号 (2010年)

(4) 資料・ディスカッションペーパー

- 「予算管理における管理者の参加の実態と機能に関する調査—中間報告—」 Tohoku Management & Accounting Research Group Discussion Paper No.36 (1994年)
- 「石巻地域の中小企業における簿記会計の電算化の実態に関する調査報告」(豊島義一・関根慎吾・佐々木万亀夫と共同研究) Ishinomaki Senshu University Management Forum Discussion Paper No.1 (2000年)
- 「石巻地域の中小企業における簿記会計の電算化の実態に関する調査報告」(関根慎吾・豊島義一・佐々木万亀夫との共著)『石巻専修大学経営学研究』 第12巻第1号 (2000年)
- 「日本電気株式会社に導入された個片の原価管理方式の計算構造 (1)」『石巻専修大学経営学研究』 第13巻第1号 (2001年)
- 「日本電気株式会社に導入された個片の原価管理方式の計算構造 (2)」『石巻専修大学経営学研究』 第13巻第2号 (2002年)
- 「石巻地域中小企業における原価計算・原価管理の普及と利用に関する実態調査報告」(豊島義一との共著)『石巻専修大学経営学研究』 第14巻第2号 (2003年)

(5) 学会報告・講演

- 「参加予算研究の統合的フレームワーク」日本会計研究学会東北部会（1987年11月，於・秋保温泉岩沼屋ホテル）
- 「参加予算の機能の本質に関する理論的研究」日本会計研究学会東北部会（1989年6月，於・石巻専修大学）
- 「日本企業の予算編成（統一論題「日本企業の予算管理」報告）」日本原価計算研究学会全国大会（1995年7月，於・法政大学）
- 「生産工程管理に適用されるスループット会計」日本管理会計学会フォーラム（1997年5月，於・青森公立大学）
- 「教科書の簿記と実務の簿記」宮城県高等学校商業教育研究会総会（1998年5月，於・東北高等学校泉校舎）
- 「スループットの会計の概念と意義に関する考察」日本原価計算研究学会全国大会（1998年10月，於・青山学院大学）
- 「スループット損益計算書の可能性」一橋大学管理会計フォーラム（2000年7月，於・一橋大学）
- 「影響機能としてのスループット会計」日本管理会計学会研究部会（2001年6月，於・明治大学）
- 「スループット会計の機能の拡大」日本管理会計学会全国大会（2001年10月，於・東北大学）
- 「サプライ・チェーンとスループット会計の指標の適合性」日本会計研究学会特別委員会（2003年7月，於・筑波大学）

(6) その他

- （書評）「小菅正伸著『行動的予算管理論』」研究年報『経済学』第55巻第2号（1993年）
- （講演記録）「教科書の簿記と実務の簿記」宮城県高等学校商業教育研究会『宮城県商業教育』第41号（1993年）
- （辞典項目）「積上げ型予算，天下り型予算，ローリング方式，見積キャッシュフロー計算書」櫻井通晴編『管理会計辞典』同文館出版（2000年）
- （辞典項目）「バックフラッシュ原価計算，制約条件の理論，スループット原価計算」日本管理会計学会編『管理会計学大辞典』中央経済社（2000年）
- （科研費報告書）「NECにおける管理会計技法の導入と発展の経緯に関する史的調査研究」平成10～11年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））研究成果報告 課題番号 [10430030]（2003年）「第IV部 日本電気株式会社に導入された個片の原価管理方式の計算構造」担当
- （用語解説）「原価管理（能率，コスト・コントロール，原価差異分析，コスト・リダクション，特殊原価調査，関連原価，答申 コストマネジメント，原価企画，Activity-based Management）」法政大学経営学会編『経営学部生のための用語集』（2009年）

以上